

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

## On Bei passive sentences in mandarin Chinese : a contrastive study with Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 藝, LI, Yi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2313">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2313</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 現代中国語の“被”受動文

## ——日中対照研究からのアプローチ——

李 藝

### 1. はじめに

本稿は現代中国語の受動文を対象として、日本語との対照の観点から分析を試みるものである。日本語と中国語の受動文について対照研究の立場から議論するにあたり、それぞれの言語にどのような受動文が存在するのかを明確にする必要がある。本稿では、先行研究を踏まえたうえで、中国語の受動文の分類について考察し、“被”受動文を中心に日本語との相違点と共通点を見る。特に、日本語受動文の研究において重要な概念である「受影」や「属性」を中国語受動文の分析に適用し、その有効性を検討する。まず、影響を含意する受動文を受影受動文と呼び、受影性と関係せず主格項の属性について述べる受動文を属性叙述受動文と呼ぶ。受影受動文は、主格項が直接の影響を受けるか否かによって、直接受影受動文と間接受影受動文に分けることができる。次に、「作る行為」の“被”受動文の不成立について、また新型“被”構造について検討する。基本的に、日本語の行為者ニ標示受動文は主格項に叙述の視点を強く寄せる表現であり、ニヨッテ標示受動文は行為者に情報の焦点を置く表現である。これに対して、中国語の“被”受動文の成立を左右するのは動作の影響であり、影響を明示することが“被”受動文の目的といえる。

### 2. 先行研究

#### 2.1 無標受動文と有標受動文

中国語において受動文は無標と有標の二種類がある。無標受動文は形式上、能動文と同じであるため、意味上の受動文とも呼ばれている。その内実は非常に雑多であり、様々なものを含んでいる。有標受動文は“被”“叫”“让”“给”のいずれか標識を用いる文であり、語順も能動文と異なる。下記例(1) - (4)は意味上の受動文の例である。なお、以下では特にことわり

がなければ、中国語例文のグロスは筆者がつけたものである。

- (1) <sup>練習問題</sup> 练习 <sup>私</sup> 我 <sup>やる・終わる</sup> 做完了, <sup>新出単語</sup> 生词 <sup>まだ</sup> 还 <sup>Neg</sup> 没 <sup>予習する</sup> 预习。

(練習問題はやりおわったけれど新出単語はまだ予習していない)

(刘月华ほか 1983)

- (2) <sup>今日</sup> 今天 <sup>の</sup> 的 <sup>新聞</sup> 报 <sup>置く</sup> 放 <sup>~に</sup> 在 <sup>どこ</sup> 哪儿 <sup>Asp</sup> 了?

(きょうの新聞はどこに置いたの?) (刘月华ほか 1983)

- (3) <sup>部屋</sup> 房间 <sup>掃除する</sup> 打扫 <sup>きれい</sup> 干净 <sup>Asp</sup> 了。

(部屋はきれいに掃除した) (刘月华ほか 1983)

- (4) <sup>この種</sup> 这种 <sup>製品</sup> 产品 <sup>とても</sup> 很 <sup>受ける</sup> 受 <sup>消費者</sup> 消费者 <sup>歓迎する</sup> 欢迎。

(この製品は消費者に愛されている) (尹洪波 2012 : 254)

これらの無標受動文においては、元の動詞の対象格(目的語)が文頭に置かれた形になるが、格交替によるものではない。

例(1)は目的語が主題化された主題文と考えてよい。この場合の語順変化は主題化によるものである。例(2)は存在を表す表現であり、「今天的报(今日の新聞)」を他動詞「放」の後ろに置くことはそもそもできないので(「\*放了今天的报在…了」), 格交替が生じていない。例(3)は述語が「打扫干净」で、「動作+結果」という構造を成しており、述語が持つ性質が対象を主格に置くことを要求している(「\*打扫了房间干净了」)。例(4)は述語動詞が「受(受ける)」であり、受動的な意味を表している。似たような表現としては「遭(思わしくないことや不幸に出くわす)<sup>1</sup>」「遭受(被る)」「挨(<いやな目に> あう)」「蒙受(受ける, 被る)」などがある。

そして、形式上ゼロでありながら、文脈が調べば能動文の解釈も可能になる場合(例 5)がある。ただし、多義性があるとはいえ、より自然な解釈は受動解釈(解釈 1)である。それは述語動詞の「逮捕」に結果が含意されていて、変化の主体が主語位置に置かれやすいからである。

<sup>1</sup> 中国語語彙の日本語解釈は『クラウン中日辞典』(三省堂)を参照したものである。

- (5) <sup>新しい</sup> <sup>転任する-来る</sup> の <sup>公安局長</sup> <sup>先月</sup> <sup>捕まえる</sup> <sup>ASP</sup>  
新 調 来 的 公 安 局 長 上 个 月 逮 捕 了。

(解釈1：新しく転任してきた公安局長が(犯人として)捕まえられた)

(解釈2：新しく転任してきた公安局長が(犯人を)捕まえた)

(戴耀晶 2006)

以上のことを踏まえて、本稿は無標受動文がヴォイスというカテゴリに属されない立場である。以下では、特にことわりがない限り、本稿でいう中国語の受動文は有標受動文を指す。

## 2.2 有標受動文の分類

先行研究では、有標受動文は主に①“被”の後ろの名詞句(行為者項)が現れるか否か、②主格(受動者項)が直接影響を受けるか否かを基準に分類されている。

### 2.2.1 「長受動文」と「短受動文」

基準①の分類では、“被”の後ろの名詞句(行為者項)が現れるものは「長受動文」(例6)と呼ばれ、現れないものは「短受動文」(例7)と呼ばれている。行為者項が現れるかどうかは日本語の受動文においては特に問題にならないが、中国語においては“被”の品詞性の規定に関わってくるので、分類の基準にもなり得る。

- (6) <sup>張三</sup> 被 <sup>李四</sup> <sup>毆る</sup> <sup>ASP</sup>  
张 三 被 李 四 打 了。

(張三は李四に殴られた)

- (7) <sup>張三</sup> 被 <sup>毆る</sup> <sup>ASP</sup>  
张 三 被 打 了。

(張三は殴られた)

一部の研究では、“被”の品詞性が二元的に捉えられており、長受動文における“被”は介詞(前置詞)と見なされ、短受動文における“被”は動詞的成分(石定栩・胡建华 2005, 石定栩 2008 など)あるいは助動詞(受動マーカー)(黎錦熙 1924 など)と見なされている。

なお、上記のように“被”の文法的性質を二分する説もあるが、一元的に説明するものもある。“被”をすべて動詞と見なす研究としては、洪心衡(1956：

21-29), 高名凱(1957: 200-211), 橋本万太郎(1987), 馮勝利(1997: 151-189)などが挙げられる。“被”をすべて介詞と見なす代表的な研究は趙元任(1968), 呂叔湘等(1980: 67), 朱德熙(1982), 李珊(1994) などである。

このように見解が分かれるのは, “被”の文法的性質の複雑さによる。“被”は, アスペクト形式がつかない(例 8)ことと, 反復形式で疑問文が作れない(例 9, 10)ことから, 動詞の典型的特徴を有していないと言える。一方, 典型的な介詞(前置詞)の場合は後ろにつく目的語句を省略してはならないが, “被”の場合は後ろの名詞句(行為者項)が省略されてもかまわない(例 7)。ただし, “被”そのものも略してしまうと(例 11), 文全体の意味が変わり, 例(5)と同様に多義的になりうる。つまり, 「張三が殴った」と, 「張三は殴っておいた」の両方の解釈が可能である。一方, 英語の前置詞 by は行為者項を導くことがその機能であり, 行為者項が現れなければ by も使われる必要がない。この意味では, 中国語の“被”は介詞(前置詞)として非典型的である。

- (8) \* 张三被了李四打了。  
 (9) \* 张三被不被李四打?  
 (10) \* 张三被没被李四打?<sup>2</sup>  
 (11) 张三打了。(張三がなぐった／張三は殴っておいた)

“被”の後ろの名詞句(行為者項)が現れるか否かによって, 中国語の受動文を「長受動文」と「短受動文」分けることは, “被”の品詞を二分説の立場から論じる場合に有効である。ただし, 現代中国語の受動文では行為者が現れることが非常に多い<sup>3</sup>。特に“叫”“让”を用いる有標受動文では, 行為者項が義務的に出現し, “叫”“让”が介詞(前置詞)であることも認められているので, この基準で分類する必然性がなくなる。

## 2.2.2 「直接受動文」と「間接受動文」

日本語との対照研究という立場からは, 基準②による分類が重要である。主格項が直接影響を受けるか否かによって, 中国語の受動文を「直接受動

<sup>2</sup> 「被没被」が言えると判定する中国語話者もいるが, 北京大学中国語学研究中心のコーパス(CCL)で検索した結果, 一例もなかった。逆に言えないと判定される「被不被」が一例だけあった。ただし, これは従属節に現れたものであり, 例(9)のように疑問文を作ることはできない。

・命运的な不同, 多少也和被不被人“看中”或“研究”或“投入”甚或“操控”有关。(CCL)

<sup>3</sup> 王力(1957)は「現代汉语的被动式绝大多数是带关系语的」(現代中国語の受動構文の絶対多数には関係語が付いている)と述べている。

文」と「間接受動文」に大別することができる。

(12) 張三 被 仇人 殺了<sup>ASP</sup>。

(張三は敵に殺された)

(13) 張三 被 仇人 殺了<sup>ASP</sup> 父親。

(張三は敵に父を殺された)

例(12)は主格の張三が殺される対象であり、直接影響を受けているため、直接受動文である。例(13)は張三の父が殺される対象で直接影響を受けていて、張三は間接的な影響を受けているので、間接受動文である。間接受動文のうち、日本語とよく比較されるのは身体部位(例 14a)や所有物(例 15a)が物理的に力を加えられたタイプである(杉村博文 2003, 佐々木勲人 2013 など)。ただし、身体部位や所有物に関わる例は中国語において、直接受動文で表現されることが多い(例 14b,15b)。そのほか、直接働きかけられた対象は身体部位でもなく、所有物でもないが、主格に立つ名詞句は物理的(例 16)、あるいは心理的(例 17)な影響を受けるという場合もある。これらの場合は直接受動文に変更することができない。

(14) a. 張三 被 猫 抓了<sup>ASP</sup> 手。

(張三は猫に手をひっ搔かれた)

b. 張三 的 手 被 猫 抓了<sup>ASP</sup>。

(張三の手は猫にひっ搔かれた)

(15) a. 張三 被 泥棒 偷了<sup>ASP</sup> 財布。

(張三は泥棒に財布を盗まれた)

b. 張三 的 財布 被 泥棒 偷了<sup>ASP</sup>。

(張三の財布は泥棒に盗まれた)

(16) 许多国家 被 美国 建立了<sup>ASP</sup> 军事基地。<sup>4</sup>

<sup>4</sup> この例文の許容度については、一部の中国語ネイティブ話者からやや不自然という意見も

(多くの国はアメリカに軍事基地を建てられた)(尹洪波 2012 : 256)

(17) 他 被 後 ろ の 運 転 手 摑 了 一 喇 叭。

(彼は後ろの運転手に警笛を鳴らされた)(尹洪波 2012 : 256)

以上、中国語受動文の分類について顧みた。本稿では、日本語受動文との対照という立場から、主に基準②による分類を参考に考察してゆく。

### 3. 本稿の中国語受動文の分類

中国語の受動文はよく、望ましくない、不如意な事態を表すと言われる(王力 1955, 王还 1983 など)。一方、不如意ではない内容の受動文の存在についても早くから言及されている。王力(1980 : 433 - 434)は、後者の受動文は西洋語文法の影響によるものであるとし、書き言葉に限られると指摘している。饶长溶(1990 : 84)もほぼ同じ見解を示している。邢福义(2004)は、好ましい内容の受動文は古代中国語において既に萌芽が見られ、現代に至って広く使われるようになったことを証明した。本稿は受動文の分類について検討する際、通時的な変化には触れず、現代中国語を対象にすることをわっておきたい。

以下では、日本語受動文の分類を参照しつつ、中国語の有標受動文の分類について検討する。そのなかで、日本語と異なる中国語受動文の統語的特徴と意味的特徴を明確にしたい。なお、北京大学中国語学研究中心が開発した書き言葉コーパス(CCL)<sup>5</sup>を用いて、実例を収集したほか、作例も使っている。

#### 3. 1 受影受動文

中国語受動文の成立条件としてよく言及されてきたのは、影響を明示的に表現する点である(王还 1983, 木村英樹 1992, 杉村博文 2006)。本稿では、

---

出たが、実際に下記のような用例もある(接続助詞を伴わない節に現れ、結果等の明示もない)ことを踏まえて、本稿はこの例を適格と判定する。

・厂家属区有一片 2000 多平方米空地, 1991 年被某工商所建立农贸市场, 把原来居民倒污水的两个 6 米多深的水窖子填死。(CCL)

(工場住宅地は 2000 平米あまりの空き地を有し, 1991 年に某工商所に農産物市場を建てられ, そこにもともと污水投棄所としてあった深さ 6 メートル余りの貯水所 2 個が埋め立てられた。)

<sup>5</sup> URL は以下の通りである。検索日は 2016 年 9 月 6 日。

[http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl\\_corpus/index.jsp?dir=xiandai](http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai)

日本語受動文の用語を借りて、影響を含意する受動文を受影受動文と呼ぶ。さらに、主格項が直接の影響を受けるか否かによって、受影受動文は直接受影受動文と間接受影受動文に分けることができる。

### 3. 1. 1 直接受影受動文

直接受影受動文においては、主格項が動作の直接の対象であり、直接に影響を受ける。なお、主格項は有情者(ヒト)の場合もあり(例 6, 12, 18, 19), 非情物(モノ/コト)の場合もある(例 20, 21, 22)。

- (18) 成绩单下来后, 我 被 我爸 痛 打 了 一 回。(CCL)

(成績表が出たあと、私は父にこっぴどく殴られた)

- (19) 这时, 孙承祖 回身开枪, 被 石头 绊 倒 了。(CCL)

(この時、孫承祖は振り向いて銃を打とうとし、石につまずいて転んだ)

- (20) 椅子 让 小王 拉 倒 了。(木村英樹 1992 : 10)

(椅子が王君に引き倒された)

- (21) 一些美国高层人士也曾表示过怀疑, 史迪威曾就此表示过反对, 认为

蒋介石把美国的援助物资和金钱都存了起来。 其中 很 大

一部分 被 中上层 人员 横 领 了。(《蒋氏家族全传》)

(一部のアメリカ上層部の人にも疑いを示しており、スティルウェルはこれに反対していた。彼は蒋介石がアメリカからの援助物資と資金を貯め込んだと見たのだが、そのなかのかなりの部分は中上層の人員に横領されていた)

- (22) 未来3天, 受来自西西伯利亚的冷空气的影响, 中国北方大部地区自

西向东将先后出现雨雪和大风降温天气, 大 雾 将 被 北 风

吹 散。(CCL)

(向う三日間、西シベリアからの冷たい空気の影響で、中国北方の大部分の地域は西から東へと雨や雪、風が強く気温の低い天気にな



り、重い霧は北風に吹き飛ばされる見込みだ)

これらは典型的な直接受影受動文であり、主格項は物理的な働きかけを受けている<sup>6</sup>。日本語に訳す場合も、そのまま直接受動文に訳するのが一般的であるが、例(19)の場合「人が石に転ばされた」という日本語は成り立たない。杉村博文(2003)は中国語において、行為者性(agency)が欠けている成分でも受動文の行為者になれることを指摘している。例(19)の「石」は非情物であり、「人が転ぶ」原因となるが、「人を転ばせてやろう」という意志を持っていない。しかし、石から人へは非常に具体的な力加えられている。中国語では、行為者に意志がなくても、影響がはっきりしている場合は直接受影受動文になれる。

このように、中国語の直接受影受動文のなかには、日本語にない、あるいは日本語から見て特徴的なものもある。

まず、原田寿美子(1995)などに指摘されているように、中国語の直接受影受動文では、日本語と異なって、共感度階層のうちの有生性の階層規則が適用されず、例(20)(21)のような非情物主格・有情行為者の受動文がよく用いられる。ただし、例(20)(21)に関しては、中日両言語ともに受動文が成立するが、日本語訳文の方は潜在受影者を想定する解釈が義務的であるのに対して、中国語の方はそうではない。例(20)の中国語からは必ずしも被害の意味合いが読み取れず、単純に「椅子」が物理的な影響を受けたことを描写しているという解釈が優先される<sup>7</sup>。

また、感知動詞<sup>8</sup>は物理的な働きかけを表さないが、非情物主格・有情行為者の直接受影受動文を構成することができる。ただし主格項はモノだけで

<sup>6</sup> 物理的な働きかけを表さない他動詞は、中国語では直接受動文を作りにくい。

・\* 我被他等了一个多小时。  
(私は彼に一時間余り待たれた)

ただし、そのような他動詞が「这么一」による従属節に入り、かつ従属節事態の結果を明示した主節に先立つと、従属節において直接受動文を作れるようになる。

・ (小张在人来人往的公司门口站着等了一个多小时) 我本来不想去的, 被他这么一等, 不想去也得去了。  
(〔張さんは人が行き来する会社の入り口に立って、一時間余り待っていた〕私はもともと行きたくなかったが、彼にこのように待たれて、行きたくなくても行かざるをえなかった)

これは、通常間接受動文を作れない語類の自動詞、他動詞が、従属節において間接受動文を作れるようになる場合と並行的である。3.1.2 参照。

<sup>7</sup> 日本語で潜在受影者を想定しない場合、例(20)に相当する訳文は「椅子が王君によって引き倒された」である。

<sup>8</sup> 「看见<見かける>」「听见<耳に入る>」「知道<知る>」「发现<発見する>」等。

はなく、コト節も可能である。

- (23) a. 有一次，我和姐姐从小门去看戏，被父亲看见了。父亲把我俩叫到办公室，严厉地批评我们说：“你们为什么搞特殊，不买票？以后不能看白戏！”(CCL)

(私と姉が裏口から劇場に入って芝居を見る様子が父に見られたことがある。父は私たちをオフィスに呼び出して、厳しく叱った、「君たち、どうして特殊扱いでチケット買わなかったの？ これからはただで芝居見ちゃだめだぞ」と)

- b. \*我和姐姐被父亲看见了从小门去看戏。

(私と姉は裏口から劇場に入って芝居を見るのを父に見られた)

- (24) a. 陈阁老和夫人说的秘密事，却被在花厅外面走过的

梅香听见了。这梅香是九小姐的贴心人……心一横，就把刚才偷听到的话一五一十全告诉了九小姐。(CCL)

(陳閣老が奥様に話した秘密が、花部屋の外を歩いて通った梅香に聞かれてしまった。この梅香は九嬢様と仲がいいから……腹を決めて、さっき盗み聞きしてきた話をそのまま九嬢様に伝えた)

- b. \*陈阁老被在花厅外面走过的梅香听见了和夫人说的秘密事。

(陳閣老は奥様に話した秘密を花部屋の外を歩いて通った梅香に聞かれてしまった)

例(23a)(24a)を能動文にすれば、それぞれ「父亲看见了我和姐姐从小门去看戏(父は私と姉が裏口から劇場に入って芝居を見るのを見かけた)」「梅香听见了陈阁老和夫人说的秘密事(梅香は陳閣老が奥様に話した秘密を聞いた)」となり、「看见(見かける)」「听见(耳に入る)」の対象は「我和姐姐从小门去看戏(私と姉が裏口から劇場に入って芝居を見ること)」「陈阁老和夫人说的秘密事(陳閣老が奥様に話した秘密)」である。ただし、「我和姐姐」はその後父に叱られることになり、受影者であることは間違いない。また、「陳

閣老」も「梅香」に秘密を話されて、被害を受けている。

これらの受動文は意味の上で、間接受動文に極めて近いが、実際に間接受動文にすると、非文、或いは非常に不自然な文になる(例 23b,24b)。日本語に訳す場合は、「私と姉は裏口から劇場に入って芝居を見るのを父に見られた」「陳閣老は奥様に話した秘密を梅香に聞かれた」のように、間接受動文にするのが普通であろう。つまり、日本語では間接受影受動文の意味と形式が対応しているのに対して、中国語では対応していない。なお、感知動詞の直接受影受動文が主格項に有情者をとる場合は不如意の意味合いを伴う。

そのほか、日本語のいわゆる持主の受身は、中国語では直接受動文の形で表現されるのが一般的である。例(25)は「我的自行车(私の自転車)」が動作の直接対象であり、間接受動に変更することができない。「自行车(自転車)」は私の持ち物ではあるが、簡単に他人に譲渡できる。例(27)において、「我的手(私の手)」が動作の直接対象であり、ほかの人に譲渡不可能である。この場合は、間接受動に変えられるが、実際の発話では、直接受動のほうが優先される。なお、例(26)の「钱包(財布)」になると、事情がやや特殊である。「手」といった身体部位のように持主から切り離せないわけではないが、「自行车(自転車)」のように簡単に譲渡するわけでもない。「钱包(財布)」そのものより、中に入っているもの(お金/身分証明書等)が持主と緊密に関係している。基本的に持主の受身は中国語では直接受動文で表現される<sup>9</sup>。

(25) a. 我 的 自 行 车 被 張 三 騎 走 了。<sup>Asp</sup>

(私の自転車は張三に乗っていかれた)

b. \*我 被 張 三 騎 走 了 自 行 车。<sup>Asp</sup>

(私は張三に自転車に乗っていかれた)

(26) a. 張 三 的 財 布 被 泥 棒 盜 了。<sup>Asp</sup>

(張三の財布は泥棒に盗まれた)

<sup>9</sup> 例 26b, 27b が選ばれるのは「張三は何をされたの」「私は何をされたの」に関心を寄せている場ありであり、「張三」「私」について述べているニュアンスが強い。例(26a)(27a)は「張三の財布」「私の手」について述べていて、より客観的である。ただし、例(26b)(27b)が使えるときは、すべて例(26a)(27a)も使える。

b. 張三 被 小偷 偷 了 钱包。

(張三は泥棒に財布を盗まれた)

(27) a. 私 の 手 被 猫 抓 了。

(私の手は猫にひっ搔かれた)

b. 私 被 猫 抓 了 手。

(私は猫に手をひっ搔かれた)

さらに、中国語の直接受動文のうち、一人称行為者受動文は頻繁に用いられている。書き言葉コーパス CCL で検索した結果、「被我」の用例が 2381 例あった。また、先行研究の中でも受動文の例として一人称行為者受動文が示されている(例 28 - 31)。杉村博文(2016)は中国語の一人称行為者受動文について考察し、その使用目的を①自分を責める(例 32), ②自己賞賛する(例 33), ③自分の行為の合理性を表す(例 34), ④出来事を客観的に描写する(例 35)のようにタイプ分けしている。しかし、このタイプ分けは一人称行為者受動文についてだけではなく、受動文全般についても同じことが言える。受動文は不如意なことも、好ましいことも表現できる(邢福义 2004 等)ので、行為者が一人称であるという条件と複合して、不如意なことを表すときは、自然に自分を責めることになり、好ましいことを表すときは、結果として自己賞賛になる。文脈の要求で受動文が用いられることもあり、例(34)の場合は話題を固定するために受動文が使われたという説明も可能である。また、下地早智子(2000: 81)の「中国語の“被”字句とは、中国語の語順の常として、最も古い情報を文頭に、最も新しい情報を文末に置いた結果、たまたま動作の受け手が文頭に置かれることになった文なのである」という指摘は、杉村博文 (2016) のいう「出来事を客観的に描写する」用法と合致している。

(28) 客人 被 我 留住 了。

(\*客は私に／によって引き留められた) (张伯江 2009: 44)

(29) 那 本 书 被 我 送给 了 小王。

(\*あの本は私に／によって王さんに送られた) (宋文辉 2007b 59)

- (30) <sup>みかん</sup> 橘子 <sup>私</sup> 被 <sup>食べる</sup> 我 <sup>Asp</sup> 吃 了。

(\*みかんは私に／によって食べられた) (蔡淑美, 张新华 2015: 201)

- (31) <sup>困難</sup> 困难 <sup>私たち</sup> 被 <sup>克服する</sup> 我们 <sup>Asp</sup> 克服 了。

(\*困難はわれわれに／によって克服された) (大河内康憲 1983: 32)

- (32) <sup>考える-考える</sup> 想想, <sup>も</sup> 也 <sup>コピュラ</sup> 是 <sup>自分</sup> 自己 <sup>ひどい</sup> 过分, <sup>私</sup> 我 <sup>息子</sup> 儿子 <sup>の</sup> 的 <sup>心</sup> 心 <sup>私</sup> 叫 <sup>あげる</sup> 我 <sup>Asp</sup> 给

傷つける-とおる <sup>Asp</sup> 伤透 了。(杉村博文 2016: 8)

(考えてみると, それも自分がひどかった。\*息子の心が私に／によってとことんまで傷つけられた)

- (33) 还有的人, 看着挺老实, 挺勤谨, 结果背地里净贪公司的钱, 让 <sup>私</sup> 我

あげる <sup>Asp</sup> 查出 来 了。(杉村博文 2016: 9)

(ある人は, 見た目はなかなかまじめで, 勤勉のように見えるが, 人に見えないところでは会社のお金を横領してばかりいる。\*それも私に／によって調べだされた)

- (34) 她爸爸暴跳如雷, 想狠狠教训女儿一顿, 被 <sup>私</sup> 我 <sup>精力を費やす</sup> 费力 <sup>説得する-とめる</sup> 劝住

<sup>Asp</sup> 了。您想想, 女儿已经在痛苦地反省自己了, 连饭都不吃, 你还逼她什么呢? 她正孤立无援, 需要人帮她一把。(杉村博文 2016: 10)

(彼女の父親は激怒して, 娘をひどく叱ろうとしたが, \*私に／によってなんとかとめられた。考えてみてほしい, 娘はすでに深く反省し, ご飯も食べないのに, 何もこれ以上強要することはないだろう。彼女は孤独で, 誰かに助けられることを必要としている)

- (35) 听说老站长是位有名的气象专家, 我们这些年轻人便想试试他的本领。

一个晴朗的早晨, <sup>老部長</sup> 老站长刚吃过早饭, 就 被 <sup>私たち</sup> 我们 <sup>囲む-住む</sup> 围住 <sup>Asp</sup> 了,

问: “今天有雨吗?” (杉村博文 2016: 12)

(老部長が有名な気象の専門家だと聞いて, 私たち若者は彼の腕を

試してみようと思った。ある晴れた朝、老部長は朝食を済ませるとすぐ、私たちに囲まれて、「今日は雨が降りますか」と聞かれた)

中国語において一人称行為者受動文が問題なく使われることと対照的に、日本語においては一人称行為者受動文は共感度階層の明確な違反になり、よほど強い使用動機がなければ使えない。そして、日本語の一人称行為者受動文の実際の使用環境を確認すると、ほぼ従属節で使われていることが分かった。

中国語における一人称行為者受動文の使用は、「自分を責める」や「自己賞賛」といった特殊な感情によるものではなく、むしろ事態把握の仕方と関係していると考える。事態把握は主観的把握と客観的把握とに分けられる(池上嘉彦 2003, 2011 等)。池上嘉彦(2003 : 35)は「最大限の<主観的把握>は発話主体の<ゼロ>形式としての表示に類像的に対応する」としたうえで、「日本語の—とりわけ、英語のような言語との対比を特に強調するという—立場からするならば、むしろ<主観的>な事態把握の方が言語化を意図しての事態把握の基本的な—プロトタイプとも言ってよい—形式ではないか」と指摘している(池上嘉彦 2003 : 36)。また、池上嘉彦(2011)は事態把握の具体的な過程について、次のように述べている。

<主観的把握>の場合、話者がもともと問題の事態の中に身を置いているならば、そのままの状況で事態把握へと進めばよい。しかし、もともと問題の事態の外に身を置いているという状況からはじめるのであるなら、話者は問題の事態の中に身を置くよう<自己投入>(self projection)するという認知的操作をしなければならない。一方、<客観的把握>の場合は、話者がもともと事態の外に身を置いているなら、そのままの状況で事態把握へと進めばよい。しかし、もともと問題の事態の内に身を置いているという状況からはじめるのであるならば、話者は問題の事態の外に身を置くよう離脱が必要である。

池上嘉彦(2011 : 53)

李藝(2016)で述べたように、日本語の非情物主格・行為者二標示受動文においては、話者自身が潜在受影者になりうる。その場合は、話者が直接関与していない事態についても主観的把握を行うために、池上嘉彦(2011)のいう「自己投入」がなされたものと見られる。一方、話者自身が行為者である

場合、日本語では受動文は基本的に認められない。これは、受動化に伴う認知的操作を加えない、主観的な事態把握がふさわしいことを示していると考えられる。中国語において一人称行為者受動文が使われるということは、話者が事態の内に身を置いているとき、話者を主格から外して客観的把握ができるということを意味する。つまり、日本語の受動文が事態の主観的把握のために用いられるのに対して、中国語の受動文は事態の客観的把握のために用いられるといえる。

杉村博文(2003)は、日本語の受動文使用は話者の主観的感情によるものであり、中国語の受動文は客観的世界の仕手と受け手の関係によるものであるとしている<sup>10</sup>。中国語における受動文の使用が、主に客観世界における動作の仕手(行為者)と受け手(受動者)との関係を反映しているとする説明は、感知動詞による非情物主格・有情行為者の直接受動文、あるいは一人称行為者受動文が中国語に存在することと矛盾しない。そもそも、中国語では非情物主格の受身文がよく使われるが、それも非情物が動作の直接対象であることによると考えてよい。

以上の言語事実を踏まえて、直接受影受動文に関して言えば、日本語では事態の主観的把握に関わり、中国語では事態の客観的把握に関わる。

### 3. 1. 2 間接受影受動文

高見健一(2011: 49)によれば、日本語では間接受身文が頻繁に用いられるが、世界のほかの言語には存在せず、わずかにベトナム語と中世モンゴル語にあるのみという。大河内康憲(1983: 35)は中国語の間接受動文の成立について「間接被動者を立てられる条件は、結局間接被動者と直接被動者との意味的関連に負うが、日本語よりずっときびしい条件、つまり密接な関連が要求されている。……多くは所属関係、譲渡不可能名詞である」と指摘している。大河内康憲(1983)の観察は例(13)(14a)(15a)を説明できるが、例(16)(17)は説明できない。また、大河内康憲(1983)の指摘にある間接受影受動文は基本的に持主の受身であり、中国語では直接受影受動文の形で表す方が普通である(例26, 27を参照されたい)。

中国語には、例(16)(17)のような間接受動文でしか表せないものが存在する。以下では、間接受動文でしか表せない例について考察する。まず、述語が自動詞の例から見ていく。

<sup>10</sup> 日语使用被动句的语义动因主要来自“说话人的主观感受”；汉语使用被动句的语义动因主要来自“客观世界的施受关系”。(杉村博文 2003: 69)

- (36) a. 張さん 被 孩子ども 鬧ぐ 了Asp 一晚上晩。  
 (張さんは子供に一晩中騒がれた)
- b. \*張さん 被 孩子ども 鬧ぐ 了Asp。  
 (張さんは子供に騒がれた)
- (37) a. 彼女 被 孩子ども 泣く 得結果補語標示<sup>11</sup> 一晚上晩 没否定 睡好觉眠れる-よく。  
 (彼女は子供に泣かれて、一晩ろくに眠れなかった)
- b. \*彼女 被 孩子ども 泣く 了Asp。  
 (彼女は子供に泣かれた)
- (38) \*張さん 被 父親父 死死ぬ 得結果補語標示 上不起学学校へ行けない。  
 (張さんは父親に死なれて、学費も払えなくなった)

自動詞の場合は、そのまま間接受動文を作ることにはできない(例36b,37b)。それは視点人物<sup>12</sup>が受けた明確なマイナスの影響が示されていないからであるが、「一晚上(一晩)」という量を足したり、「没睡好觉(ろくに眠れなかった)」という結果を付け加えたりすることで許容量が増す。しかし、それにも制約があり、例(38)は結果を付け加えても、受動文として成り立たない。自動詞「死(死ぬ)」は通常、視点人物に与える影響を含意しないからである<sup>13</sup>。

日本語における自動詞の間接受動文では、具体的な結果が示されないケースが少なくない。例えば「雨に降られた」「父親に死なれた」の場合、視点人物が受けたマイナスの影響を示すことは義務的ではない。中国語においては、自動詞が他者への影響を含意し、かつ視点人物へのマイナスの影響が明示された場合にのみ、自動詞による間接受動文が成り立つ。例(39)の場合も、中国語では「得心煩(いらいらした)」まで言わなければならないが、日本語では「試験中に、試験官にまわりを何度も歩かれた」等で十分である。

<sup>11</sup> 「得」を「様態補語」の標識とする説(劉月華ほか1983等)が一般的であるが、本稿で言及する用例は「得」の後ろの補語が結果を表すものであり、この意味特徴から「結果補語標示」とする。

<sup>12</sup> 本稿で言う視点の定義は久野暉(1978)の「カメラ・アングル」に従う。視点人物は、「視点(カメラ・アングル)が置かれる人物」である。

<sup>13</sup> 逆に、間接受動文が作れるか否かのテストによって、当該の自動詞が他者への影響を含意するか否かが判別できる。



(39) a. 私 被 他 来 回 走 得 心 烦。  
私 彼 行く-戻る 歩く 結果補語標示 いらいらする

(私は彼にまわりを何度も歩かれて、いらいらした)

b. \*私 被 他 来 回 走 了。  
私 彼 行く-戻る 歩く Asp

(私は彼にまわりを何度も歩かれた)

中国語においては、他者への影響を含意しない自動詞は間接受動文を作れない。しかしながら、ある種の従属節において、そのような自動詞が視点人物への影響を表すようになり、主節においては成り立たない、または成り立ちにくい間接受動文を作ることが可能となる場合がある(例38', 40, 41, 42)。

「这么 (このように) + 一<sup>14</sup> + V」という構文は、先行文脈を受けて動詞の意味を具体化するはたらきがあり、自動詞がこの構文による従属節に入った場合、他者への影響性が増し、同時に主節においてその結果を明確に述べる必要が出てくる。例えば、「病(病気になる)」という自動詞は、例(40b, c)に示されるように、結果補語を付け加えても、「一か月」という量を足しても間接受動文を作ることにはできない。しかし、「这么一」による従属節に入ると、問題なく間接受動文を成立させるようになる。例(38') (41)(42)の場合も同様である。

(38') 張さん かれ 父 と 愛人 旅行 時 出る 事故 死ぬ Asp 張さん  
 [小张 他 爸 和 小三 旅游 时 出 事故 死 了] 小张

かれ 父 このように 一つ 死ぬ も Neg. 出席 親戚 集まり Asp  
 被他 爸 这么 一 死, 也 不 出席 亲戚 聚会 了。

( [張さんの父親は浮気の相手と旅行中に事故死した] 張さんはこのように父親に死なれて、親戚の集まりに顔を出せなくなった)

(40) a. 子ども 夜中 突然 発する-はじめる 高热 上 吐く 下 下痢する 張さん  
 [孩子 半夜 突然 发起 高烧, 上 吐 下 泻] 小张

子ども このように 一つ 病気になる 明日 会社 するしかない 休みを取る Asp  
 被 孩子 这么 一 病, 明天 公司 只能 请假 了。

<sup>14</sup> ここの「一」は副詞であり、「ぱっと。さっと。単音節動詞や形容詞の前に置いて、短い動作、または突発的な状況を表す」とされる用法である。なお、クリスティーン・ラマルレ (LAMARRE, Christine) (2016) は「一」が一回アスペクトマーカの機能、つまり出来事の「結果性の取り消し」機能を有すると指摘している。

(〔子供は夜中に急に高熱を出して、嘔吐と下痢の症状も出た〕張さんはこのように子どもに病気になられて、明日会社を休むしかない)

b. \*小张 被 孩子 病 得 请假 了。  
張さん 子ども 病気になる結果補語標示休みを取る Asp

(張さんは子どもに病気になられて会社を休んだ)

c. \*小张 被 孩子 病 了 一个月。  
張さん 子ども 病気になるAsp 一か月

(張さんは子どもに一か月も病気になられた)

- (41) a. “王妈！王妈！天哪！”鲁月星的妈妈李媛刚进到吃饭厅门口，见儿子正在吃鱼，且正被呛得满脸通红，心里一阵着急，就慌乱地喊了起来。鲁月星 被 她 这么 一 喊，也 吓 了 一

跳ぶ  
 跳.....(陈苏云《冰雨》2006: 93)

(「王さん！(家政婦の名前)王さん！神様よ！」魯月星の母親李媛はリビングルームに入った途端、息子が魚を食べていて、しかも顔が真っ赤になるほどむせているところを目撃し、心の中から焦って、つい慌てて叫びだした。魯月星は彼女にこのように叫ばれて、びっくりした……)

b. ? 鲁月星 被 她 喊 得 吓 了 一 跳。  
魯月星 彼女 叫ぶ 結果補語標示 驚く Asp 一つ 跳ぶ

(魯月星は彼女に叫ばれてびっくりした)

- (42) a. 那少女突然哈哈大笑，前仰后合，似是听到了最可笑不过的笑话。

張無忌 一言 もともと すでに いたる Asp 口先 しかし 彼女 このように  
 张无忌 一句话 本 已 到 了 口边，但 给 她 这么

一つ 笑う 直ちに 脹れる 赤い Asp 顔  
 一 笑，登时 胀 红 了 脸，说不出口。(《倚天屠龙记》)

(その少女は急に大声で笑いだして、体を前後に大きく揺らすほど笑って、最高におもしろい笑い話を聞いたようだった。張無忌は言いたいことが口先まで来たが、彼女にこのように笑われて、一瞬顔が赤くなり、口に出せなくなった)

b. ? 张无忌 给 她 笑 得 胀 红 了 脸。  
張無忌 彼女 笑う 結果補語標示 脹れる 赤い Asp 顔

(張無忌は彼女に笑われて顔が赤くなった)

中国語の自動詞による間接受動文は、基本的に二つの出来事を含んでいる。この点については日本語と変わりがない。例えば、例(36)では「子供が一晩騒いだ」が一つの出来事であり、「張さんがある事態を被った」がもう一つの出来事である。「子供が騒いだ」という事態は、「張さん」を困らせるために生じたわけではない。言いかえれば、「騒ぐ」という動作の向かう先は「張さん」ではない。例(37)では二つの出来事がさらに明確に分かれており、それぞれ「子供が泣いた」「彼女が一晩ろくに眠れなかった」である。同様に、ここでも「子供」は「彼女」を眠らせないために泣いたわけではなく、「泣く」という動作の向かう先は「彼女」ではない。自動詞による間接受動文において、行為者は視点人物に影響を与えようとする意図がないにもかかわらず、マイナスの影響を与える結果になり、しかもその結果が明示されている。日本語の自動詞による間接受動文では視点人物が受けた影響を明示しなくてもよいのに対して、中国語の場合は影響を明示しなければならない。

次に、述語が他動詞である間接受動文の例を見る。他動詞による間接受動文は、日本語にはかなり多いが、中国語には比較的少ない。中国語の間接受動文において、視点人物はマイナスの影響を受けている。例(45)(46)の「亮红灯」「打小报告」は、一般に損害を被ることと認識されている。

(43) 多くの国 被 アメリカ 建てる Asp 軍事基地 了 (=16)

(多くの国はアメリカに軍事基地を建てられた)

(44) 他 被 後ろの 運転手 押す Asp 一回 警笛 了 (=17)

(彼は後ろの運転手に警笛を鳴らされた)

(45) a. 私 被 審査員 つける Asp 赤いランプ 了<sup>15</sup>

(私は審査員に赤のランプをつけられた)

b. \*私 被 審査員 つける Asp 青のランプ 了

(私は審査員に緑のランプをつけられた)

(46) 他 被 張三 打つ Asp 告げ口 了

<sup>15</sup> この文が使われる場面として、オーディションなどが想定される。例えば、審査員がオーディションに合格した人に対して緑のランプをつけ、不合格の人に対して赤のランプをつけて知らせる。

(彼は張三に告げ口をされた)

これらの他動詞による間接受動文も、やはり二つの出来事を含んでいる。例(43)は「アメリカが軍事基地を建てた」ことと「多くの国がある事態を被った」こと、例(44)は「後ろの運転手が警笛を鳴らした」ことと「彼がある事態を被った」こと、例(45a)は「審査員が赤のランプをつけた」ことと「私がある事態を被った」ことから、それぞれ成っている。ただし例(45b)は、「審査員が緑のランプをつける」ことが好ましい事態であるために、間接受動文として成立しない。最後に、例(46)は「張三が告げ口をした」ことと「彼がある事態を被った」こととを含んでいる。

これらの例は日本語の間接受動文と同じように見えるかもしれないが、実はそこに大きな違いが潜んでいる。日本語の他動詞による間接受動文は、視点人物が被害を受けていると思えば成り立つものであって、動詞の意味とは基本的に関係がない。例えば、自分が納豆を食べようと思っていた人、あるいは逆に納豆のおいが大嫌いな人であれば、「隣の人に納豆を食べられた」と表現できる。しかし、中国語では「\*我被旁边的人吃了纳豆(私は隣の人に納豆を食べられた)」という表現はいかなる状況でも使えない。

中国語では、他動詞による間接受動文の成立は、他動詞が対格項以外の他者への影響を含意するか否かと関係する。上記の例に戻ってみると、例(43)では、「アメリカが軍事基地を建てた」のは「多くの国」を戦略に引き込むためである。例(44)では、「後ろの運転手が警笛を鳴らした」のは「彼」を促す／に注意するためであって、動作の向かう先は「彼」である。例(45a)では、「審査員が赤いランプをつけた」のは「私」に要求／期待に達していないことを示すためである。「つけた」のは「赤のランプ」であるが、それは「私」に結果を知らせるためであって、動作の向かう先は「私」である。例(46)では、「張三」が行ったことは「告げ口」であるが、それは「彼」に影響を与えるための行為であり、動作の向かう先は「彼」である。

このように、中国語の他動詞による間接受動文においては、他動詞が対格項以外の他者への影響を含意するといえる。他動詞にその含意がなければ、視点人物が被害を受けたと思っても、他動詞による間接受動文は成り立たない。さらに次の例(47)を参照されたい。

(47) a. \*次郎 被 女儿 买了 很 贵的 衣服。

b. 次郎は娘に高い服を買われた。

例(47a)の「买(衣服)」は他者への影響を含意せず、中国語ではこの文は成立しない。他方、例(47b)の日本語の文は、父が「娘が高い服を買って、困ったな」と思えば間接受動文として成り立つ<sup>16</sup>。

中国語の間接受動文について、自動詞の場合と他動詞の場合に共通する間接受影性の特徴は、語彙的な他者への影響の含意である。自動詞の場合にはそれに加えて、間接受動文を成立させるためには、影響の結果を明示しなければならない。

### 3. 2 属性叙述受動文

中国語受動文には、受影性や物理的な影響と関係がなく、主格項の属性について述べる受動文がある。日本語の呼び名を借りて、この種の受動文を属性叙述受動文と称する。まず、以下の実例を見られたい。

- (48) 在金莲花的故乡南美洲，金莲花 被 人们 认为 是 重要的  
食用植物 之一。(CCL)

(キンレンカの故郷南アフリカでは、キンレンカは重要な食用植物の一つと<人々に>考えられている)

- (49) 藏历大年初一，有人在凌晨时分起床，到河边冒着刺骨的寒风争挑第一桶水，第一桶水被称为金水，第二桶水称为“饮水”，这 水 被  
人们 认为 是 人 畜 食用 之 吉祥 之 水。(CCL)

(チベット暦の元旦には、未明に起きる人たちがいて、川まで行って寒い風に立ち向かい、一番桶の水を汲むのを競争する。一番桶の水は金水と呼ばれ、二番桶の水は“飲水”と呼ばれる。この水は人

<sup>16</sup> 間接受動文が作れるか否かのテストによって、他動詞が対格項以外の他者への影響を含意するか否かが判別できる(注13参照)。また、「吃(納豆)」「买(衣服)」の類も「这么一」による従属節の中では間接受動文を作れるようになり、自動詞の場合と同様である。

- ・(我讨厌纳豆的气味，可是他坐在我旁边吃纳豆)被他这么一吃，我没心情看电视了。  
 ((私は納豆のにおいが嫌いなのに、彼は隣に座って納豆を食べていた)彼にこのように食べられて、私はテレビを見る気分がなくなった)
- ・(女儿一下子买了三套 Gucci 的衣服)他被女儿这么一买，这个月的房贷都还不起了。  
 ((娘は一気にグッチの洋服を三着買った)彼は娘にこのように買われて、今月の住宅ローンも支払えなくなった)

や家畜が飲用するのに縁起が良いと<人々に>考えられている)

- (50) 目前, 巴西禁止司机开车时使用手机, 但事实上这项法律被

<sup>たくさん</sup> <sup>人</sup> <sup>無視する</sup>  
许多人忽视。(CCL)

(現在, ブラジルでは車を運転する時に携帯電話を使うことを禁止しているが, 事実上この法律は多くの人に無視されている)

- (51) 有“软黄金”之称的羊绒衫, 也 被 <sup>追う</sup> <sup>ファッション</sup> <sup>の</sup> <sup>人々</sup> 追赶时尚的人们

<sup>愛する</sup>  
喜爱。(CCL)

(“軟黄金”と呼ばれるカシミヤのセーターは, ファッションを追う人々にも愛されている)

- (52) 在现代史学研究中, 历史调查被 <sup>人々</sup> <sup>广泛</sup> <sup>使用する</sup> 人们广泛使用。(CCL の用例を一部変更)

(現代歴史学研究において, 歴史調査は人々に広く用いられている)

これらの受動文は主格に立つ名詞句の属性について述べており, 述語動詞の表す動作が主格項(動作の対象)に何か物理的な影響を与えるわけではない。

例(48)(49)は「金蓮花」と「第二桶水」がそれぞれどのようなものを説明する文であり, それらの恒常的属性を叙述している。例(50)の「忽视(無視する)」, 例(51)の「喜爱(愛する)」は対象に物理的な力を加えない動作を表す動詞であり, 人が感情を向けることを表す。これらの受動文は主格に立つ名詞句に対する一種の評価と考えることができる。一方, 例(52)の「使用(用いる)」は具体的な動作ではあるが, 対象に明確な影響を与えるものではない。

属性叙述受動文の場合, 文が表す事態をいつ観察できるかは特定できず, 言い換えればいつでも観察できる。属性叙述の本質は観察可能時<sup>17</sup>が特定で

<sup>17</sup> 観察可能時の定義について福田嘉一郎(2015)に従う。福田嘉一郎(2015: 201)は「観察可能時」を次のように定義している。

事態の観察可能時, すなわち, 「その時に話者自身が事態の現場にいれば, 事態を観察できる(事態についての直接情報を自らの五感によって取得できる)」と話者が考える(または実際に観察した)時を POT(Possible Observation Time)とする。

ないということである。受動文の属性叙述には、事態が個別・特定でなく、反復的・習慣的である例が多い。行為者も概ね非特定である。上の中国語の例では、行為者が「人们(人々)」「许多人(多くの人)」である。

属性叙述受動文では、必ず“被”という形式が用いられ、“叫”“让”が用いられることはない<sup>18</sup>。また、中国語の属性叙述受動文は書き言葉によく用いられる。口頭語に現れる場合も、報道、ナレーションや講演などに限られており、日常の会話では用いられない。

中国語の属性叙述受動文は日本語のそれと並行的であり、対応する部分が多く、基本的に相互の翻訳が可能である。中国語についていえば、中国語では新しい情報を文の後ろに置く傾向があり、属性叙述受動文の先頭に置かれた主格項は、主題に相当する古い情報を表している。また、日本語についていえば、日本語の非情物主格・行為者ニ標示受動文を使うには、行為者より動作の対象に視点が寄せられる条件が調べばよい。上に述べたように、属性叙述受動文においては、多くの場合事態が非特定であり、概ね行為者も非特定である。行為者が非特定なら、特定である動作の対象に視点を寄せることが自然になる。このように、属性叙述受動文の構造は中国語“被”受動文と、日本語の行為者ニ標示受動文の成立条件を満たしている。

### 3. 3 「作る行為」の受動文

日本語では、「作る行為」の受動文の行為者はニヨッテで標示される。行為者ニ標示受動文は被影響に起因する対象への視点の接近を要求するが、行為の前に存在しない物は影響を受けることがなく、そこには視点が寄せられないので、「作る行為」の受動文の行為者はニで標示できない(例(53a)(54a))。ニヨッテ受動文は行為者に情報の焦点を置く表現であり、ほかの選択肢を排除する働きがある。

一方、中国語では作る行為は“被”受動文で表すことができない。「作る行為」の“被”受動文が使えないのは、行為の前に存在しないものが行為の影響を受けられないことによる。日本語には受影とも視点とも関わりのないニヨッテ受動文があるのに対して、中国語の“被”受動文は受影と関わらずには使えない。また、「作る行為」は1回限りなので、3. 2節の属性叙述受動文を成立させることはない。なお、例(16)(=43)のような間接受動文においては、受影者が動作の前にすでに存在するので、「作る行為」であ

<sup>18</sup> “叫”“让”は口語的。

っても“被”間接受動文として成立する。

(53) a. 會議が議長によって招集された。

b.\*<sup>會議</sup>被<sup>議長</sup>招集<sup>了</sup>了。

(54) a. 新しいビルが〇〇建設によって建てられた。

b.\*<sup>新しい</sup>的<sup>の</sup>大樓被<sup>〇〇建設</sup>建造<sup>了</sup>了。

中国語では、「作る行為」の対象を主格項とする場合は“由”構文<sup>19</sup>で表すのが一般的である。“由”は前置詞であり、後ろの行為者を導く。ただし、「作る行為」の“由”構文がアスペクトの形式“了”を伴って既然の事象を表す場合は“由”だけではやや文の座りが悪くて<sup>20</sup> (例(55b)(56b)), 強調の“是…的”<sup>21</sup>とペアで現れるのが普通である (例(55c)(56c))。

(55) a. 會議が議長によって招集された。

b.?<sup>會議</sup>由<sup>議長</sup>招集<sup>了</sup>了。

c. <sup>會議</sup>是<sup>コピュラ</sup>由<sup>議長</sup>招集<sup>的</sup>的。

(56) a. 新しいビルが〇〇建設によって建てられた。

b.?<sup>新しい</sup>的<sup>の</sup>大樓由<sup>〇〇建設</sup>建造<sup>了</sup>了。

<sup>19</sup> 王还(1983)によれば，“由”構文は主に責任者は誰なのか、事物の構成部分を明らかにする機能を果たすため、対象がどのような影響を受けたのかと無関係である。

<sup>20</sup> 「作る行為」に関わらない“由”構文は“了”を伴うことができる(「这个问题由政府解决了<この問題は政府によって解決された>」)。また、「作る行為」であっても“了”を伴わないなら“由”構文が可能である(「会议由议长召集<會議が議長によって招集される>」「新的大楼由某某建筑公司建造<新しいビルが〇〇建設によって建てられる>」「这场辩论由西澳的两名华人医生引起<この議論は西オーストラリアの2名の中華系医師によって引き起こされた>」)。なお、「作る行為」の“由”構文は“了”を決して伴わないというわけではない(「总计 180 亿港元的基础设施建设费用,全部由外商出了<計 180 億香港ドルの基礎設備建設費用は,全部外国企業によって出された>」)。

<sup>21</sup> 「是…的」構文における「是…的」の中に入るものは主に動詞か動詞フレーズ,あるいは動詞を述語とする主述フレーズである。述語は動作が過去において既に実現あるいは完了していることを表すが,述べようとする重点は動作自体にあるのではなく,動作の時間や場所,やり方,条件,目的,対象,仕手など,動作に関係する何らかの側面にある(井上優 2003)。



c. 新新しい的の大樓ビル是コピュラ由由る某某〇〇建築建設公司建てる建造の的。

中国語の“由”は動作の起点だけをマークするもので、“由”構文は日本語のニヨッテ受動文と対応するケースが多い<sup>22</sup>。ニヨッテは焦点化の表現であるが、“由”の場合も後ろにつく名詞句に焦点があり、両者は対応している。

また、“由”構文は不如意や好ましくないといった感情を含意せず、客観的な表現として書き言葉に現れることが多い。

### 3. 4 新型“被”構造：被XX

中国語の受動文には近年<sup>23</sup>、インターネットを起点として、新しい用法が現れた。「被就業」「被投票」「被結婚」がそれである。「被就業」は就職していないのに、就職できたと伝えられていることを、「被投票」は投票していないのに投票したと伝えられているということを意味する。「被結婚」には二つの読みが可能であり、結婚していないのに結婚したと伝えられていること、または結婚したくないのに無理やり結婚させられることを表す(黄正徳, 柳娜 2014 : 226)<sup>24</sup>。

「被XX」の「XX」は基本的に二音節の単語であり、様々な語が自由にこの構造に入りうる。尹洪波(2012 : 262)によれば、主に三種類のものが「被XX」構造として用いられる。第一に「XX」が自動詞の場合(「被就業」「被結婚」)、第二に「XX」が形容詞の場合(「被幸福」「被富裕」<sup>25</sup>等)、第三に「XX」が名詞の場合(例えば、「被中産」は収入等がまだ中産階級の基準に達していないのに、統計等で中産階級として扱われているという意味を表す)である。尹洪波(2012 : 262)は新型“被”構造を中国語受動文の第二回拡張と見ている。受動文の第一回拡張は不如意な、好ましくない事態を表す表現から好ましい事態も普通に表せる表現への意味拡張であった。

新型“被”構造の「被XX」は「(事実でないのに)…と伝えられている／として扱われている」という意味、および「無理に…させられる」という

<sup>22</sup> ただし、例(55c)(56c)は「会議は議長によって招集されたのだ」「新しいビルは〇〇建設によって建てられたものだ」に相当する表現である。

<sup>23</sup> 黄正徳, 柳娜(2014 : 225)によれば、この種の用法は2008年になってはじめて文法研究の立場から注目されるようになったが、現れたのはもう少し前かもしれない。

<sup>24</sup> 「被就業」「被投票」も、文脈によっては「無理に…させられる」と解釈されうる。

<sup>25</sup> 「被幸福」は幸せではないのに、幸せだと伝えられているという意味を表す。同様に、「被富裕」は実は生活が裕福ではないのに、裕福だと伝えられているという意味である。

意味を表す。いずれの意味にしても、この新しい用法は必ず不如意、好ましくないという感情を含意し、主格項にマイナスな心理的影響を与えてしまうので、受影性が非常に強いことは否めない。受影受動文は好ましい事態と好ましくない事態を両方表すことができるが、新型“被”構造の「被XX」は好ましくない事態しか表せない。この好ましくない事態しか表せないという点は、“被”の語源的意味が濃厚に出ていることを意味する。また、この種の受動文では行為者(A)を標示することはできない(「\*被 A XX」)。これらの点を踏まえると、「被 XX」は構文レベルのものというより、語彙レベルで「被」が動詞に回帰したものと見てもよい<sup>26</sup>。

日本語においても、「…(という)ことにされる」のように補文標識を用いた類似の表現が見られる。ただし、中国語の場合と異なり語彙化はしていない(「\*就職られる」「\*幸福られる」「\*中産られる」)。

#### 4. まとめ

以上、本稿では現代中国語受動文の分類について述べてきた。従来の「直接受動文」と「間接受動文」という枠組みを受け継いだうえで、再検討し、これまであまり注目されてこなかったいくつかの言語現象について考察した。中国語を対象とした本稿の分析は、日本語研究においても意義を有する。例えば、日本語の「受影」という概念が主観的な影響を重視するのに対して、中国語では客観的な影響を重んじるが、中国語を対象とした分析から、日本語の「受影」にも客観的な一面がある(結果等の明示は義務的でない)ことが知られる。また、「作る行為」の受動文について、中国語で“被”受動文が成立しないことと、日本語で行為者ニ標示が成立しないこととは並行的であり、日本語の受動文に見られる視点現象の根拠が「影響」にあることを示している。

基本的に、日本語の行為者ニ標示受動文は主格項に叙述の視点を強く寄せる表現であり、ニヨッテ標示受動文は行為者に情報の焦点を置く表現である。他方、中国語の“被”受動文の成立を左右するのは動作の影響であり、影響を明示することが“被”受動文の目的といえる。この根本的な違いが様々な側面に反映されている。以下では中国語の“被”受動文を分類したうえで、それぞれの特徴について振り返る。

<sup>26</sup> 「XX」は、本来独立文の資格をもつ表現がそのまま名詞化した引用名詞類と解釈できるかもしれない。その場合、「被」は他動詞、「XX」は対格項であり、何者かの“XX。”という(不適切な)判断がそのまま名詞化していることになる。なお、引用名詞類については山口治彦(2016)を参照されたい。

まず、受影受動文は直接受影受動文と間接受影受動文に分けることができる。

直接受影受動文について、動作の直接の対象は主格に立つ名詞句であり、結果を明示的にすれば非情物(モノ／コト)も主格になれる。日本語と比べたとき、中国語の直接受影受動文には次のような特徴がある。①日本語のいわゆる持主の受身は、中国語では直接受動文で表現されるのが一般的である。②感知動詞(听见<耳にする>、看见<見かける>、知道<知る>等)は直接受影受動文を成す。意味上は間接受動文に極めて近いが、実際に間接受動文にすると非文になる。③中国語では事態の客観的把握が基本であり、一人称行為者の直接受影受動文が問題なく使える。

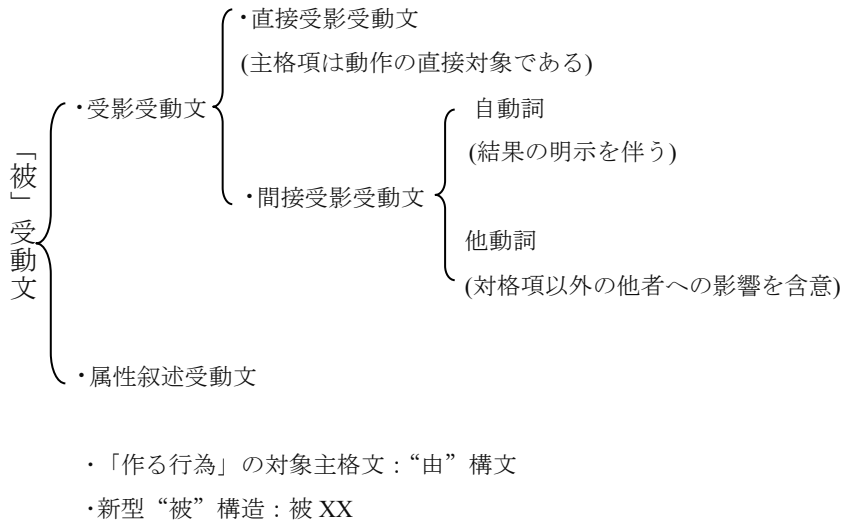
間接受影受動文について、中国語では日本語の場合ほど広くは用いられない。中国語の間接受影受動文には次のような特徴がある。①自動詞はそれのみで間接受動文を作るのは難しいが、結果補語などの成分を付け加えれば間接受動文の許容度が高くなる。特殊な構文の従属節においては、間接受動文がさらに成り立ちやすくなる。②他動詞が間接受動文を成立させるためには、対格項以外の他者への影響を含意しなければならない。その含意がなければ、視点人物が被害を受けたと思っても、他動詞による間接受動文は成り立たない。

次に、属性叙述受動文は受影性と関係せず、主格項の属性について述べる受動文である。管見の限り、これまでの研究は中国語の属性叙述受動文を単独の一類と見ていないが、受影性がない点はほかのタイプの受動文と大きく異なるので、区別する必要があると考える。属性叙述受動文は一回限りでない反復的・習慣的な事態を表すことが多く、行為者も概ね非特定である。

また、中国語では「作る行為」を“被”受動文で表すことができず、対象を主格項とする場合は“由”構文が用いられる。行為の前に存在しないものは、行為の影響を受けられない。「作る行為」は1回限りなので、受影性と関わらない属性叙述受動文を成立させることはない。これらの理由で「作る行為」の“被”受動文が不適切である。他方、“由”構文は受影性と無関係なので、「作る行為」と相性がよい。

最後に、新型“被”構造「被XX」は、“被”が動詞に回帰したと見られる語彙レベルの新用法である。主に「(事実でないのに)…と伝えられている／として扱われている」という意味、および「無理に…させられる」という意味を表し、基本的に行為者項が現れないところが特徴的である。

中国語受動文の分類をまとめると下図のようになる。



#### 中国語受動文の下位分類

#### 参考文献

##### ＜日本語文献＞

池上嘉彦(2003)「言語における＜主観性＞と＜主観性＞の言語的指標(1)」『認知言語学論考No.3』山梨正明・辻幸夫・西村義樹・坪井栄治郎[編] ひつじ書房 pp.1-49.

池上嘉彦(2011)「日本語と主観性・主体性」『ひつじ意味論講座 第5巻 主観性と主体性』澤田治美[編] ひつじ書房 pp.49-67.

井上優 (2003) 「「の」文と“的”構文」『中国語学』250号 pp.264-274.

大河内康憲(1983)「日・中語の被動表現」『日本語学』1983年4月号 pp.31-38.

王学群(2012)「中国語の“被留学”について」『日本語と中国語のヴォイス』日中対照言語学会.

木村英樹(1992)「BEI受身文の意味と構造」『中国語』1992年6月号 pp.10-15.

久野暲(1978)『談話の文法』大修館書店.

久野暲(1986)「受身文の意味——黒田説の再批判——」『日本語学』1986年2月号 pp.70-87.

佐々木勲人(2013)「ヴォイス構文と主観性——話者の言語化をめぐる——」『木村英樹教授還暦記念 中国語文法論叢』白帝社 pp.315-331.

- 下地早智子(2000)「日本語と中国語の受身表現について——機能主義的分析——」『人文学報』第311号 東京都立大学人文学部 pp.75-91.
- 高見健一(2011)『受身と使役：その意味規則を探る』開拓社.
- 原田寿美子(1995)「中国語の受動態について——主語の選択の観点からの問題提起」『名古屋学院大学外国語学部論集』第6巻第2号pp.231 - 242.
- 福田嘉一郎(2015)「叙想的テンスの出現条件」『国語国文』第84巻5号 pp.197-211.
- 山口治彦(2016)「第5章 直接引用しか許さない引用形式——引用名詞類の日英対照研究——」福田嘉一郎・建石始[編]『名詞類の文法』pp.81-104, くろしお出版.
- 楊凱榮(1992)「文法の対照的研究—中国語と日本語」『日本語と日本語教育』第五巻pp.312-340.明治書院.
- クリスティーン・ラマール (LAMARRE, Christine) (2016)「副詞「一」の語りにおける背景化機能」日本中国語学会関西支部例会 2016 年度第 2 回例会.
- 李藝(2016)「非情物主格・行為者ニ標示受動文について——コーパス上の実例に基づく一考察——」『神戸外大論叢』第 66 巻 1 号 pp.19-40.

### 〈中国語文献〉

- 蔡淑美, 张新华(2015)〈类型学视野下的中动范畴和汉语中动句式群〉《世界汉语教学》第29卷2015年第2期.
- 戴耀晶(2006)〈现代汉语被动句试析〉, 邢福义主编《汉语被动表达问题研究新拓展》, 华中师范大学出版社.
- 冯胜利(1997)《汉语的韵律, 词法和句法》北京大学出版社.
- 高名凯(1957)《汉语语法论》(修订本)科学出版社.
- 龚千炎(1980)〈现代汉语里的受事主语句〉《中国语文》1980年第5期 pp.335-344.
- 桥本万太郎(1987)〈汉语被动式的历史区域发展〉《中国语文》1987年第1期 pp.36-49.
- 黄正德, 柳娜(2014)〈新兴非典型被动式“被XX”的句法与语义结构〉《语言科学》, 13(3) pp.225-241.
- 洪心衡(1956)《汉语语法问题研究》新知识出版社.
- 黎锦熙(1924)《新著国语文法》商务印书馆.
- 李珊(1994)《现代汉语被字句研究》北京大学出版社.
- 刘月华 潘文娱 故韡(1983)《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社.
- 相原茂監訳『現代中国語文法総覧』くろしお出版. 1988.

- 吕叔湘等(1980)《现代汉语八百词》商务印书馆。
- 饶长溶(1990)《把字句·被字句》人民教育出版社。
- 石定栩, 胡建华(2005)〈“被”的句法地位〉《当代语言学》2005年第3期 pp.213-224.
- 石定栩(2008)〈长短“被”字句之争〉《青海民族学院学报》(社会科学版)第3期 pp.111-117.
- 宋文辉(2007a)〈“被”的语法化散论〉《语法化与语法研究(三)》商务印书馆 pp.155-174.
- 宋文辉(2007b)《现代汉语动结式的认知研究》北京大学出版社。
- 杉村博文(2003)〈从日语的角度看汉语被动句的特点〉《语言文字应用》2003年第2期 pp.64-76.
- 杉村博文(2006)〈汉语的被动概念〉《汉语被动表述问题研究新拓展》邢福义 [主编] 华中师范大学出版社 pp.284-295.
- 杉村博文(2016)〈汉语第一人称施事被动句的类型学意义〉《世界汉语教学》第30卷2016年第1期 pp.3-15
- 王还(1983)〈英语和汉语的被动句〉《中国语文》1983年第6期 pp.409-418.
- 王力(1955)《中国现代语法》商务印书馆。
- 王力(1980)《汉语史稿》中华书局。
- 邢福义(2004)〈承赐型“被”字句〉《语言研究》第24卷第1期。
- 尹洪波(2012)〈汉语被动句研究说略〉『日本語と中国語のヴォイス』日中対照言語学会 pp.252-268.
- 张伯江(2009)《从施受关系到句式语义》商务印书馆。
- 张谊生(2004)〈试论“由”字被动句——兼论由字句和被字句的区别〉《语言科学》第3卷第3期 pp.38-53.
- 赵元任(1968)《中国话的语法》商务印书馆。
- 朱德熙(1982)《语法讲义》商务印书馆。杉村博文・木村英樹訳『文法講義—朱德熙教授の中国語文法要説』白帝社。1995.

Keywords: 直接受動文 間接受動文 属性叙述受動文 作る行為